会 議 録

会議体名	令和6年度第3回豊島区男女共同参画推進会議・女性活躍推進協議会	
開催日時	令和6年9月13日（金）13時～15時10分	
場 所	男女平等推進センター研修室2およびオンライン会議	
出席者	委員	治部れんげ、クリストッフエルクラッツ、片上平二郎、村木太郎、有里真穂、北岡あや子、塚田ひさこ、星京子、宮地明子、阿部やよい、栗林知絵子、須藤啓光、紙子陽子、永野浩美、新庄聖、原実則
	事務局	総務部長、男女平等推進センター所長、各所管課長、係長、係員
公開の可否	会議	公開
	会議録	公開
会議次第	<p>1 議題</p> <p>(1) 豊島区困難女性支援基本計画について</p> <p>(2) ファミリーシップ制度導入に係るパブリックコメントの結果について</p> <p>(3) その他</p>	
会議資料	<p>< 資料 ></p> <p>資料 1-1：豊島区困難女性支援基本計画素案</p> <p>資料 1-2：豊島区困難女性支援基本計画目標について</p> <p>資料 1-3：豊島区困難女性支援基本計画策定に係る調査の結果について</p> <p>資料 1-4：【9月13日時点】困難女性支援基本計画策定スケジュール案</p> <p>資料 2：ファミリーシップ制度の導入（「豊島区男女共同参画推進条例の一部を改正する条例」）パブリックコメント実施結果</p>	
事務局（所長）	現在の出席者数は15名、豊島区男女共同参画推進条例第19条に規定された会議開催の委員定足数に達していることを報告する。	
会長	令和6年度第3回豊島区男女共同参画推進会議・女性活躍推進協議会を開催する。傍聴希望の方はいらっしゃるか。	
事務局	3名いらっしゃる。	
会長	傍聴の可否について委員の皆様にお諮りしたい。いかがか。（委員了承）	
	傍聴については許可したいと思う。事務局より資料の確認と説明をお願いします	

会 議 録

る。

議題（１）豊島区困難女性支援基本計画について

事務局

—資料 1-1、1-2、1-3、1-4 の説明—

会長

ご質問・ご意見はあるか。

A 委員

前提として今豊島区は、基本構想と基本計画を策定しており、本区の政策の見直し、整理、再構築をしているところである。その中で、第 1 次豊島区困難女性支援基本計画は第 5 次としま男女共同参画推進プランに関連する計画として位置付けられ、令和 9 年度になると第 6 次としま男女共同参画推進プランに統合されていくという理解でよろしいか。

事務局（所長）

その通りである。

A 委員

そうすると第 1 次豊島区困難女性支援基本計画は、豊島区の基本計画の下の計画として積み上げていくということか。つまり、基本計画を踏まえて今後統合される第 6 次プランも策定していくということによろしいか。

事務局（所長）

その通りである。

A 委員

今基本計画の策定において、施策の取りまとめをするにあたり、施策の方針や指標の設定を全部項目毎に分けてチェックシートを作っている。特に指標については成果指標と活動指標に分かれており、各施策に対して評価項目をセッティングしている。これは後々行財政評価にも関わってくることになると思うが、将来的には行財政評価や基本計画の指標の立て方とリンクさせていくことも踏まえてこの計画は作っているのか。

事務局（所長）

素案 34 ページにあるとおり指標を作り、進捗管理をしていく考えである。こちらについては男女共同参画推進プランの中に最終的に入れるので、今のプランと同じような形で考えている。

A 委員

現在の素案は施策の 1 から 7 までそれぞれに指標が示されている訳でなく、まとめて示されているが、ここ数年の豊島区の実行財政評価においてはこのように目標を矢印で示すことはなく、数値の目標や活動指標と成果指標に分けて達成状況を管理している。それと連携する形で、施策ごとに活動指標、成

会 議 録

<p>事務局（所長）</p>	<p>果指標を立てる必要があるかと思うが、その点についてはいかがか。</p> <p>ご指摘の通り、今の段階では重点事業に対して成果指標を設けているので、今後検討させていただきたいと思う。ただ今回は2年間の計画で、来年度の進捗結果を令和8年度に出していくことになるが、令和8年度には既に次の計画の策定作業に入ることになる。そのため、令和7年度1年間の進捗結果を踏まえて、次期計画を策定することとなる。</p>
<p>A 委員</p>	<p>各施策の単年度の成果指標を出さずに、どうやって2年後にその施策の効果や評価をだせるのか。2年の計画であるから評価が出来ないという発想ではなく、活動指標は単年度であっても効果は測れるので、一つ一つの事業を丁寧に積み上げていく必要があるのではないか。また、施策1から7の間に重複する部分もあるので、整理が必要だと思うがいかがか。</p>
<p>事務局（所長）</p>	<p>困難女性支援という括りで始まったのが今年度からというところもあり、データが有るものと無いものがある。困難女性支援は一つの所管でなく様々な部署でやっているものなので、全ての事業に細かく具体的で、最適な指標を立てるのは難しいと考えている。そのため今は重点事業のみ指標を立てている状況である。</p>
<p>A 委員</p>	<p>豊島区の基本計画で評価すべき点は、施策の方向性が同じものであれば全ての課が具体的な事業と評価指標を上げてきて、それを全て総点検しているところであると思う。各課が何をどうやっているかを取りまとめるのが所管課の仕事ではないか。今後、当計画でも全庁的な取り組みの精査というのは必要だと思うがいかがか。</p>
<p>事務局（所長）</p>	<p>指標は大きい括りで立てているが、この計画を立てるにあたり、各課がどのような事業が出来るか確認する調査は既に実施している。計画には掲載していないが、各所管課でこの2年間で行う取り組みや事業は細かく取りまとめている。それをまとめたものがこの計画素案である。これは第5次男女共同参画推進プランと同様の方法となる。</p>
<p>A 委員</p>	<p>もう一点質問だが、計画素案の第3章に現状と課題が書かれているが、文章が長いうえ、施策や事業の内容が羅列されているように感じる。もう少し整</p>

会 議 録

事務局（所長）	理した方がいいと思うが、その点についてはいかがか。
A 委員	次回もう少しわかりやすくお示しできるようにしたいと思う。
事務局（所長）	ターゲット自体の整理もまだ曖昧だと感じる。そのため当然その後についてくる施策の内容自体も、ターゲットの課題に見合った内容になっているのか曖昧である。各課の調査結果を活かして、再度整理していただきたいと思う。
会長	施策の方向については、6 ページに記載のとおり、大きく 3 つの柱建てで考えている。一つ目が、一人の方に対して、どのように早期発見して、自立支援まで切れ目ない支援をどのように進めていくかという内容である。二つ目は、若年女性や複合的な課題を抱えていたり、障害を持った女性などに対してどのように支援していくべきかという内容である。特に豊島区は若年女性支援に力を入れているが、更に充実させていきたい、若年女性支援をひとつ別にして掲載している。三つ目が、いろいろな課題に対しての支援体制や支援の実施主体をどうするかということで、一つの部署だけでなく庁内・庁外、また民間団体との協働や、普及啓発をするというような内容で作っている。それらがもっとわかるように現状と課題の書き方は工夫したいと思う。
B 委員	指標の目標を矢印表記している点は行政文書として違和感があるので、数値目標で書くことが馴染まないとしても文章で書いていただきたいと思う。
事務局（所長）	切れ目のない多様な支援というのはいいコンセプトであると思う。多様であるがために色々なものを拾う必要があるし、見えないものを発見してネットワークを作っていく観点が必要である。また若年女性とマイノリティということで特化されているが、高齢女性についても広い視野で見えていくことが重要であると思う。また幼少期の問題を拾っていくことも必要ではないか。あとは、女性相談支援員が有期雇用になっているところも、非常に難しい問題ではあるが意識して欲しい。そして若年女性の問題に関して、気軽に相談に行けることは大切だが、気軽であるが故に起きてしまう問題があることも含んでおく必要がある。また、先程の意見とは異なるが、目標を数値化することについては慎重にならなくてはいけないと思う。例えば相談件数を増やすことを目標とした時に、相談件数が増えるということは同時に問題が増えて

会議録

事務局（所長）	<p>いる可能性もあるため、数値化をいかに妥当にするか、いかに効果測定の際にその効果をきちんと測れる指標を作るかは難しい問題である。そのため、安易な数値化や短期的な目標を作りすぎることにはやや危険性を感じている。</p> <p>若年女性とマイノリティに特化しているということに関して、施策の方向 2 では若年女性支援を一つの柱にしたいと思っているが、施策 4 のところでいただいたご意見も踏まえながら内容を追記したいと思う。女性相談支援員については全国的に正規でない方が多い状況で、東京都の計画にも常勤が約 6 割、非常勤が約 4 割とある。全国的な課題であり、今後何かしていかなければいけないと感じている。また指標の件については、ご指摘の通り数値化する際は短期の目標と長期の目標で分けて考えていかなければいけないと思っているので、次回文章でお示しできるようにしたい。</p>
子育て支援課長	<p>女性相談支援員のご意見について補足だが、令和 5 年度は常勤職員が 4 名、非常勤職員が 4 名であったが、今年度から常勤職員 5 名、非常勤職員 3 名の構成になっている。</p>
副会長	<p>全体として、もう少し具体的に書いた方がいいと思う。計画素案の 27 ページの 15 番は、外国籍の人、障害者等合わせて書いているが、外国人は言語の壁や、仕組みがよく理解できないという問題を抱えている。外国人を一つの項目として分けて具体的に何をするのか書かないと、抽象的で分かりにくいと思う。</p>
事務局（所長）	<p>もう少し工夫させていただきたいと思う。</p>
C 委員	<p>先程の箇所、障害者も多くの悩みを抱えているが、女性の問題が浮き上がってこない、男女別のデータを掲載するべきであると思う。また、もう少し細かく分けて記載した方がいいと思う。</p>
会長	<p>様々な属性の生きづらさを包括支援しようとしてまとめて記載したものと思うが、丁寧に分けた方がいいと思う。また、可能なところからでもジェンダー別でどのように困難状況が異なるかを調べておくと、より良い政策に繋がっていくと思う。</p>

会 議 録

<p>事務局（所長） 障害福祉課長</p>	<p>書き方については工夫させていただきたい。 疾病等によって男女差もあり、どういう表現や統計をお示しできるかは検討していきたいと思う。また障害者虐待防止センターを設置しているが、障害者手帳の有無に関わらずご相談いただける場となっている。</p>
<p>D 委員</p>	<p>計画全体についてはプラスに評価している。具体的には、民間との協働についてしっかり触れられていることや、対象者についても年齢、障害の有無、国籍等を問わず支援の対象とする旨を明記しているところを評価したい。そして先程話のあった豊島区の基本計画を踏まえてきちんと作るべきだということや、各課の施策を整理して策定していくことについては全くその通りであると思う。ただ、昨今施策に対する評価を無理に数値化すると、施策が少し歪んでしまうという議論が度々起きるようになっている。確かに数値化は大事だが、逆転して数値が全てということにならないよう気を付ける必要がある。そして第3章施策の方向のところの書き方が整理できていないと感じる。現状と課題の部分に施策の方向まで一緒に書いているので、そこは整理した方が分かりやすいと思う。それから、女性相談支援員がきちんと活動出来るための仕掛け作りが必要ではないか。その意味でも女性相談支援員の資質の向上は大切であり、長期にわたって安定して勤められるような環境整備をぜひお願いしたい。ただ、常勤化すると異動が伴うため、蓄積されたノウハウ・経験が活かされなくなるという懸念点もある。仕事を安定させることの大切さと続けていくことの大切さについても考慮をお願いしたい。また、障害のところにジェンダーの視点が乏しいこととも先程話の合ったとおりである。また、高齢者にもきちんと焦点を当てるべきである。そして施策の内容あるいは所管課のところに教育委員会とか学校という言葉が無い。教育の役割も大事だと思うので、豊島区としてそういう仕掛けも作っていただきたいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>ご指摘はごもっともで、学校はとても大事だと思う。</p>
<p>事務局（所長）</p>	<p>現状と課題については再考する。教育委員会のところについては、指導課、庶務課、教育センター等は教育委員会の管轄である。ただ、もう一度教育の</p>

会 議 録

子育て支援課長	<p>部局と調整をして、どういったことが出来るかを確認していきたいと考えている。</p> <p>女性相談支援員について、ご指摘の通り常勤化した場合、異動のリスクがある。そんな中で豊島区が1名を常勤化したのは、児童相談所の設置に伴い福祉人材の育成を課題と感じており、様々な経験をしてスキルアップするという側面を重要視したことによる。非常勤の方は異動が無いという部分とスキルの蓄積していくことについて、バランスをとりながら職員を育成していきたいと考えている。</p>
E 委員	<p>困難女性支援法は女性だけに特化しているところが大きな特徴だと思う。法策定の背景として、困難な状態にある女性の個人的な責任でなく、長らくジェンダー不平等であったことや、日本の社会構造によるところが大きいということを書いていただきたい。データに関して、なぜ女性の為の支援法が必要なのが分かるようなものを入れた方がいいと思う。例えば給与の男女間格差はあらゆる職業・職種においても生じていることが分かるデータや、配偶者からの暴力相談、被害経験を補足するような殺人件数が分かるデータがあると良い。男性でも困難な状況に置かれている方はたくさんいらっしゃる、なぜ女性だけなのかという声も時々聞くので、そういう意味でも困難女性支援法の背景、これまでの社会状況、社会構造のことも入れたらどうかと思う。また、協働において地域ということがすごく大事であると思うので、地域のことをやっている所管を入れた方が良く思う。さらに資料1-2の目標案に関しては、困難を抱える女性を対象であるということが分かった方がいいと思うので、「困難な状況にある女性の今と未来をともに支えるまち」という案を提案する。</p>
F 委員	<p>計画案としては素晴らしいものができていると思う。基本的に何を先行し、何を優先して、何を具体的に組み込んでいくかというところまで、しっかりとこの計画案に盛り込んでいただきたいと思う。また、具体的な施策、取り組みが見える形で盛り込んでいただきたい。どこに目を向けてどこに働きかけているのかを指標として掲げていただきたいと思う。</p>

会 議 録

G 委員	<p>住宅支援は大事なポイントであるが、ここには高齢者の居住支援も入ってくると思う。生活保護を受けている高齢者や単身世帯の高齢女性は連帯保証人の設定が出来ない場合がある。その場合は保証会社を使うこともあるが、緊急連絡先を設定する必要がある、高齢になると身内の方や近隣の方でお願いすることが出来ず結局部屋探しで困難な状況に陥ってしまうことが多々ある。自治体として緊急連絡先等について何かフォロー出来るような施策が作れたらいいと思う。そして空き家を活用した居住支援を実施しますと書かれているが、具体的にお示しいただきたいと思った。また計画素案 34 ページに居住支援の充実とあるがやはり数値目標が無い、具体的に何をするのか次回アップデートできると良いと思う。</p>
事務局（所長）	<p>いただいたご意見のもと、次回、計画案をお示ししたい。</p>
会長	<p>目標案についてのご提案をいただく場合には 10 月 15 日までに事務局にご連絡願いたい。</p>
	<p>議題（2）ファミリーシップ制度導入に係るパブリックコメントの結果について</p>
事務局	<p>—資料 2 の説明—</p>
会長	<p>この件については第 3 回定例会にて条例改正の議案上程をし、11 月 1 日から制度を開始する予定である。ご意見・ご質問あるか。</p>
D 委員	<p>区の対応の中の 5 番に戸籍上同性異性であるかに関わらず制度の利用が可能ということになっているが、このことと 6 番以降のところの関係を説明してほしい。</p>
事務局（所長）	<p>パートナーシップ制度は同性でなく異性の場合も、どちらかが多様な性自認性的指向の方であれば利用できる、今の段階でも要件に合っていれば異性カップルも使えるという回答をしている。トランスジェンダー同士の二人というのはこちらに該当する。</p>
D 委員	<p>この回答が誤解を招くような気もするので気を付けた方がいいと思う。</p>
会長	<p>トランスジェンダー同士にも対応するのであれば、かなり複雑であると思う</p>

会 議 録

E 委員	<p>が、そこまで包摂的に対応するのであれば事実婚についても検討してもいいのではないかという印象を持った。他にご意見・ご質問等あるか。</p> <p>事実婚についての要望が多くあり、それに対する区の考え方としては事実婚のことは考えていないと受け取れてしまい気になった。今は入れないとしても今後の考え方を記載した方がいいのではないかと思う。</p>
事務局（所長）	<p>事実婚についてご要望があることは認識しているが、今回はファミリーシップ制度の導入についてのパブリックコメントなので、その点について回答させていただいている。パートナーシップ制度を導入した経緯と事実婚を入れるかどうかは、今後法律に基づく婚姻制度があることや豊島区のパートナーシップ制度の趣旨に合致するか等、検討する課題もあると思うので、他の自治体の動向も今後見ていきたいと考えている。</p>
B 委員	<p>事実婚を選択する人もある意味的少数者ともとらえられると思うので、事実婚問題は考えていただきたいと思う。</p>
会長	<p>男女平等推進センターで扱っている施策の定義が結構広がっている中で、事実婚を触らないのは全体の方向性とは違うという印象を持っていたところである。11月1日から制度を開始することを踏まえて現段階での大きな変更は難しいかと思うが、事務局は筋の通った政策を進めるようお願いする。本日の議題は以上であるが、事務局から事務連絡をお願いする。</p>
事務局	<p>令和6年度第4回会議は11月1日（金）の13時から男女平等推進センター研修室2およびオンラインのハイブリッド方式で開催する。</p>
会長	<p>以上をもって令和6年度第3回豊島区男女共同参画推進会議・女性活躍推進協議会を閉会する。</p>